

檀紙にかきておなじくむすびつけ、る。

すみだ川すむとしき、しみやこ鳥けふは雲井のうへに見るかな此事兼直宿禰つたへ聞いて、本主に申こひて見侍て返すとて、

都鳥芳名昔聞萬里之跡微禽寄體今遂一見之望畏悅之餘謹述心緒而已、

前三河守ト部兼直上

にござりなき御代にあひみるすみだ川すみける鳥の名をたづねつ、

〔十六夜日記〕廿日〇文明十一年中略隅田川のほとりにいたり〇中猶ゆきくて川上にいたり侍りて、都鳥たづね見むとて、人々さそひけるほどに、まかりてよめる、

こと、はんはしとあしとはあかざりしわがすむかたのみやこどりかと

〔廻國雜記〕十月〇文明八年中略隅田川のほとりにいたり〇中猶ゆきくて川上にいたり侍りて、都鳥たづね見むとて、人々さそひけるほどに、まかりてよめる、

こと、はむ鳥だに見えよすみだ川都戀しと思ふゆふべに
思ふ人なき身なれども隅田川名もむつましき都鳥哉

〔有德院殿御實紀附錄十六〕寛保のはじめ、冷泉大納言爲久卿參向ありし時、靈元上皇うちく御所望ありしは、都鳥の事古説分明ならざれば、叡覽有たしとなり、公吉〇徳宗川聞召れ、都鳥は墨田川にのみすめるもの、やうにいひ傳ふるといへども、實は今も彼所に多く群ゐる鷗の事をいひしるべし、鐵砲にて打とり、其さまをよくくうつして、爲久にみすべしと仰ありしかば、小納戸松下伊賀守當恒うけたまはりて、たゞちに墨田川にゆき、綾瀬のほとりにて、大小の鷗ふたつ打取て來りしを、岡本善悦豊久格朋に、其眞をうつさせ、爲久卿の旅館に賜りぬ、其後成島道筑和